

ご挨拶

第十九世住職 渡邊隆厚



謹啓 盛夏の候、暑さ厳しいおりご尊家の皆々様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、葬儀や法事の際に卒塔婆(略して塔婆)が用意されておりますが、塔婆とはどういう意味があるのでしょうか。

卒塔婆の起源は古代インド語のサン스크リット語による「ストゥーパ」になります。昔インドはいくつもの小さな国に分かれておりました。お釈迦様がお亡くなりになられ、仏舎利(遺骨)は8つの國の王に分骨されたといいます。その仏舎利を納めたお墓がストゥーパなのです。後にインドを統一したアショーカ王が8分骨されていた仏舎利を回収し、自らの手で今度は8万4千に再分骨したと言われております。なので、この時期にお釈迦様のお墓・ストゥーパはインド全土に8万4千基造営されました。仏教がシルクロードを渡つてインドから中国に伝わりサンスクリット語であるストゥーパが音写され卒塔婆となりました。

ストゥーパは元々、土を盛った半円球の形(お椀を伏せたような形)をしていましたが、やがてレンガや石を積んだ形になり、中国に伝わると石や木による直立した塔の形になりました。時代とともに色々な形に変化していき、その後、日本に仏教とともに伝わりお寺でよく見る五重塔・五輪塔という様な形にもなりました。平安時代末期の頃に故人の供養のためお墓を建てることが一般的になると、卒塔婆がお墓に供えられるようになりました。

現在の卒塔婆は五輪塔と同じように仏教の宇宙観で五大が表現されています。下から地(四角)・水(円)・火(三角)・風(半円)・空(宝珠)となつており、「地・水・火・風・空」の5つの要素がこの世界を構成していると説かれ、真言宗ではこの宇宙・世界は「大日如来」という仏様に表されています。また、人間の体も地(足)・水(腹)・火(心臓)・

風(顔)・空(頭)に表されております。このため、卒塔婆といふのは太日如來であり、私たちの体であり、大日如來と私たち人間は一つなのだと真言宗では考えております。ですので、戒名が書いてある卒塔婆はその亡くなられた方であり、仏様であるので大事に扱つて頂ければと存じます。もともと、ストゥーパを建てるということは、とても善い行い(善行)と言われております。卒塔婆を葬儀・年忌法要(法事)の際にご先祖様の供養のためにご家族の方がお墓に卒塔婆を立てるというのは、善行であり、追善供養の1つです。

追善供養とは、ご先祖様の法事やお墓へのお参り等を生きている方が行う(善行)ことによつて、それがご先祖様の方の善行にもなり、それが巡つて自分に戻つてくるという考え方です。

最後になりますが、「お墓にある塔婆はどうしたらいいか?」とよく聞かれます。不動院では出来れば自然に無くなるまでお墓に立てて下さいと話しております。ただ、もう新しい塔婆を立てられない。古い塔婆で乱雑になつてゐるということがありましたら、1番新しい塔婆を残して頂き、古い塔婆は焼いて土に埋めて頂くか、不動院に持つて来て頂ければお焚き上げいたします。

これからも暑い日が続きますが、どうかご自愛のほどお祈り申しあげます。

(空 風 火 水 地)



合掌

不動院奉讚会の活動

龍泉寺様(成羽町)
で瀬戸内三十三觀音
靈場合同大法会が行
われ参列いたしました。
秘仏ご本尊「聖觀
世音菩薩」様のご開帳
がありました。



奉讚会会員募集!
いっしょに楽しく
巡拝しましょう

